

宮崎県文化財調査報告書

第 35 集

平成4年3月

宮崎県教育委員会

宮崎県文化財調査報告書

第 35 集

平成4年3月

宮崎県教育委員会

序

埋蔵文化財の保護・活用につきましては、日頃より深い御理解をいただき、厚くお礼申し上げます。

宮崎県教育委員会においては、文化財の保護及び文化財指定のための調査や、土木工事等の諸開発事業に伴う遺跡の緊急発掘調査の報告を刊行し、文化財に対する理解を頂いているところであります。

この度は、昭和61年度調査の、新富町園田遺跡の発掘調査について収録しております。園田遺跡の調査では、弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての砂丘上の集落の様相を明らかにすることができました。

本書が、社会教育・学校教育の場において広く活用され、あわせて学術研究上の資料として役立つことを期待いたします。

なお、調査に際してご協力をいただいた地元の方々、及び市町村教育委員会の方々に深甚の謝意を表します。

平成4年3月

宮崎県教育委員会

教育長 高山 義孝

例 言

1. この報告書は、宮崎県教育委員会が主体となって、過年度実施した埋蔵文化財発掘調査の内未報告であったものの一部を集録したものである。
2. 掲載している遺跡名・所在・調査期日・執筆者は下記のとおりである。
3. 本報告書の編集は、宮崎県教育庁文化課がおこなった。

記

遺跡名	所在地	調査期間	調査担当	執筆者
園田遺跡	児湯郡新富町 大字富田字園田	昭和61年11月13日 ～昭和62年1月30日	永友良典	永友良典

総 目 次

1. 園田遺跡調査報告	1
付. 平成3年度 泉市町村教育委員会発行埋蔵文化財調査報告書一覧	46

SONO DA
園 田 遺 跡 II



例 言

1. 本報告は鬼付女河川激甚災害対策特別緊急事業に伴い昭和59年度から昭和61年度にかけて県教育委員会が実施した鬼付女西遺跡・園田遺跡の発掘調査のうち、園田遺跡B地区およびC地区（2次）の発掘調査報告書である。
2. 園田遺跡B地区およびC地区（2次）の発掘調査は、昭和61年11月13日から昭和62年1月30日にかけて行われた。調査は県教育庁文化課主任主事永友良典（現、県総合博物館埋蔵文化財センター主査）が担当した。

なお、本報告の執筆・編集は永友が行った。
3. 出土品は宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

1. はじめに	1
2. 関田遺跡B地区の調査	1
(1) 調査の概要	1
(2) 調査の結果	1
a. 遺構	1
b. 遺物	4
3. 関田遺跡C地区(2次)の調査	10
(1) 調査の概要	10
(2) 調査の結果	10
a. 遺構	10
b. 遺物	10
4. まとめ	23

挿図目次

第1図 関田遺跡周辺地形図	2
第2図 B地区遺構・遺物分布図	3
第3図 B地区出土遺物(1)	6
第4図 B地区出土遺物(2)	7
第5図 B地区出土遺物(3)	8
第6図 B地区出土遺物(4)及びC地区出土遺物(1)	9
第7図 C地区出土遺物(2)	11
第8図 C地区出土遺物(3)	12
第9図 C地区出土遺物(4)	13
第10図 C地区出土遺物(5)	14
第11図 C地区出土遺物(6)	15
第12図 C地区出土遺物(7)	16
第13図 C地区出土遺物(8)	18
第14図 C地区出土遺物(9)	20
第15図 C地区出土遺物(10)	21

表 目 次

表 1	B地区出土土器観察表 (1)	25
表 2	B地区出土土器観察表 (2)	26
表 3	B地区出土土器観察表 (3)	27
表 4	B地区出土土器観察表 (4)	28
表 5	C地区出土土器観察表 (1)	29
表 6	C地区出土土器観察表 (2)	30
表 7	C地区出土土器観察表 (3)	31
表 8	C地区出土土器観察表 (4)	32
表 9	C地区出土土器観察表 (5)	33
表10	C地区出土土器観察表 (6)	34
表11	C地区出土土器観察表 (7)	35
表12	C地区出土土器観察表 (8)	36
表13	C地区出土土器観察表 (9)	37

図 版 目 次

図版 1	園田遺跡B地区・C地区遠景	38
	園田遺跡B地区 (東方から)	
図版 2	園田遺跡B地区 (西方から)	39
	園田遺跡C地区	
図版 3	B地区出土遺物 (1)	40
図版 4	B地区出土遺物 (2) 及びC地区出土遺物 (1)	41
図版 5	C地区出土遺物 (3)	42
図版 6	C地区出土遺物 (4)	43
図版 7	C地区出土遺物 (5)	44
図版 8	C地区出土遺物 (6)	45

1. はじめに

鬼付女川河川改修事業にともなう発掘調査は昭和59年度から継続されている。そのうち、国道10号線以東の地区については、鬼付女川左岸に位置する鬼付女西遺跡および園田遺跡の2遺跡の調査が昭和59年度から61年度の3カ年5次にわたって実施されている。

今回報告する園田遺跡B地区および同C地区(2次調査)は昭和61年度の調査区として昭和61年11月13日から62年1月30日の間発掘調査が実施された。

2. 園田遺跡B地区の調査

(1) 調査の概要

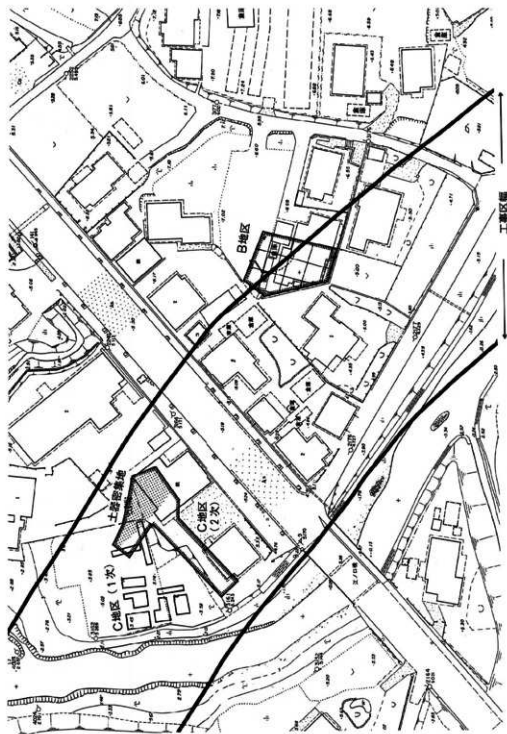
園田橋から江ノ口橋の間の左岸をB地区とした。東西約100m、南北約50mの三角地帯で現況は宅地および道路である。調査は河川改修事業にともなう家屋の移転や撤去が終了した後に着手した。地形的にB地区は鬼付女川の河岸沿いが標高5m前後の低地となり河岸から30m~40m以北に標高6m~7mの微高地(第4砂丘)が広がる。調査地区のほとんどが低地で10カ所ほど試掘坑を入れて確認したところ一帯は砂層からなる地層で遺物も検出されなかった。また、調査地区内の微高地も大半がすでに削平されており、かろうじて削平から免れた調査地区中程の微高地先端部約60㎡について調査を行った。調査区は宅地内にありブロックべいやコンクリート基礎の残存が見られた。

調査では北側のブロック塀を基準に5mグリッドを設定しコンクリート基礎を避けながら精査を行った。調査区全体を薄い盛土が覆いそれを剥ぐと直下に暗褐色の砂層の地積が見られた。薄い堆積であるが遺物が検出される包含層である。調査区北部に暗褐色砂層が厚く堆積する箇所が確認され多量の遺物が出土した。竪穴住居の輪郭も一部で検出された。遺物は弥生土器が大半を占め、土師器皿や布痕土器も少量出土した。また、石包丁、磨製石鏃、磨石などの石器類も見られた。

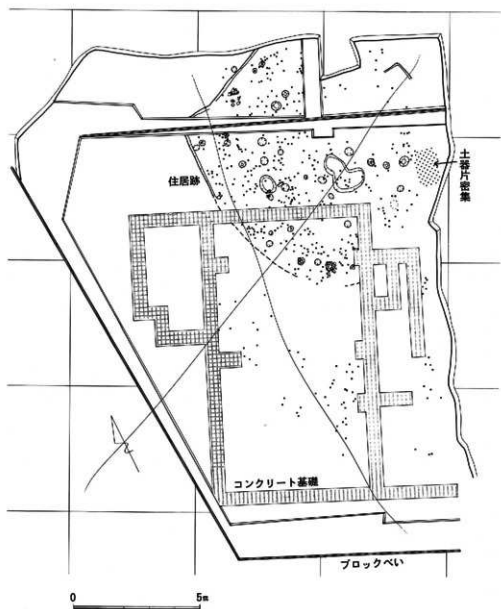
(2) 調査の結果

a. 遺構

調査区が砂層であったことから住居跡の検出は困難であったが調査区の北西側に竪穴住居のプランの一部が検出できた。住居跡の北西部コーナーと南に延びる壁面、北東部コーナーの壁面が確認できほぼ南北方向を主軸とする長さ8~8.5mの方形プランの住居跡と推測される。さらに北西部コーナーから東に延びる壁面も検出され2軒の住居跡の切り合いも考えられたが土層断面



第1図 阪田車站地形図 (縮尺1000分の1)



第2図 B地区遺構・遺物分布図(ドットは遺物)

などの精査からも確認できなかった。検出された壁面は確認面からの深さ15cm～10cmを測るが西部コーナーから南に延びる壁面は南に行くほど浅くなり南西壁周辺のプランは不明瞭な暗褐色砂層の薄い堆積のみとなる。

方形プランの住居跡内には中央部付近にひょうたん型の土壌が検出されたほか大小30基近くの柱穴と思われる掘り込みが検出された。しかし、ほとんどの掘り込みが径20cm前後のものでいずれも深さが10cmに満たない。掘り込みは住居跡全面で検出されたが住居跡に伴う遺構は確定できなかった。

b. 遺物

出土状況

今回掲載した遺物の大半は住居跡および住居跡プラン内と思われる地点から出土している。住居跡および住居跡プラン外出土の土器は2・14・36・38の4点である。

土器

甕形土器（第3図1～12）

1～3は逆「L」字口縁を有する甕の口縁部。1は復元口径23.5cmを測る。1・3とも口縁下に3条の突帯が巡る。

4・5は直立および直立気味に外反する甕の口縁部。口縁下に1～2条の突帯を巡らす。

6～11は刻目突帯を巡らす甕。6・8～10は直立および直立気味に外反する口縁部下に刻目突帯を巡らしている。8・9・10は口唇部にも刻目を施している。7は口唇部にのみ刻目を施している。11は「く」の字に外反する口縁部を持ち頸部に刻目突帯を巡らす甕で胴部はあまり張らない。復元口径28.2cmを測る。

12は「く」の字に外反する口縁部を持つ甕。復元口径23.7cmを測る。

壺形土器（第3図13・14、第4図15～24、第5図25～27）

13・14は頸部がしまり口縁部が水平方向に短く外反する。15は頸部に1条の突帯を巡らせ口縁部が大きく外反する。

16～20・25は「く」の字状に外反する口縁部。16～18は口縁部のみ残存するが、それぞれ復元口径は16が10.8cm、17が11.4cm、18が11.0cmを測る。19は球形の胴部が付く。復元口径10.0cm、胴部最大径18.3cmを測る。20は肩の張らない胴長の胴部が付く。復元口径10.7cm、胴部最大径14.4cmを測る。胴部に逆「し」の字状の線刻と横4本線の線刻を組み合わせた記号文が施されている。

21～24・26・27は壺の頸部から底部にかけての部位である。21・23・24・27は球形の胴部であ

る。26は平底。21は底部を欠くが尖り気味の丸底と思われる。このうち24・26・27にはヘラ描きの線刻が施されている。24・27には縦線と横線を組み合わせた線刻が胴部中位に、26には「×」印の線刻が胴部下位に見られる。

底部（第5図28～38）

いずれも平底である。28・29・30は脚台状の底部である。28は上げ底状、30・38はあまり広がらない。34には球形の胴部が付くと思われる。35は木の葉の圧痕が見られる。

鉢形土器（第6図39・40）

39は口唇部を欠くが推定復元口径8.8cm、推定復元器高5.6cmを測る。胴部の胴部に直立気味の口縁部が付く。40は完形で口径8.7cm、器高6.2cmを測る。底部から口縁部にかけて一気に開く。底部はいずれも平底で厚みを持つ。

器台形土器（第6図41）

上下にラッパ状に開く。復元口径20.9cm、器高15.3cm、裾部径17.4cmを測る。

杓子状土器（第6図42）

身部の一部を欠くが完形である。身部はほぼ球形で柄部は角度を持つ。柄部の全長は約5.0cm、径は8mm×6mm。外寸幅6.6cm、高さ4.5cm、内寸幅5.2cm、深さ3.7cmを測る。

坏形土器（第6図43・44）

43は口縁部から胴部が残存する。口径17.6cm、推定器高2.3cmを測る。44は坏の底部でヘラ切り底である。

布痕土器（第6図45）

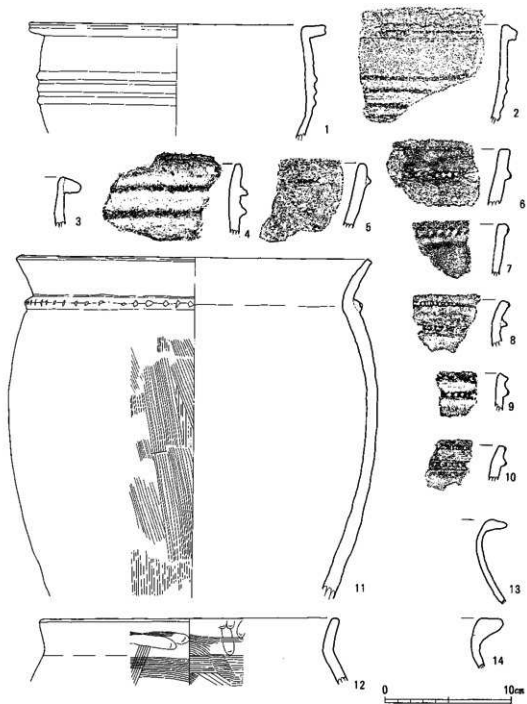
口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部は外方へ削ぎ落とされており円錐形の反りを見せる。

石器（第6図①・②・③）

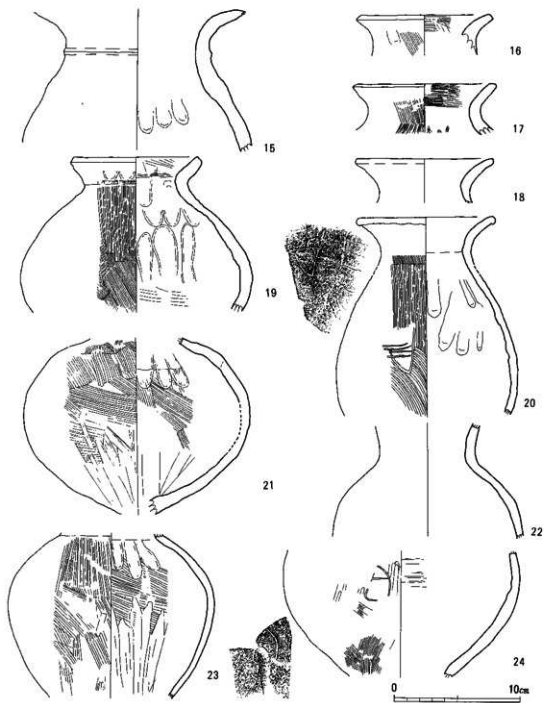
①は基部を欠損する片刃の石斧。現存最大長15.9cm、最大幅7.2cm、最大厚4.7cmを測る。刃部や片面が磨ってあり砥石に再利用したと思われる。石材は細粒砂岩である。

②は方形の片刃の石包丁で両端に抉りを持つ。最大長7.4cm、最大幅4.1cm、最大厚0.5cmを測る。石材は頁岩である。

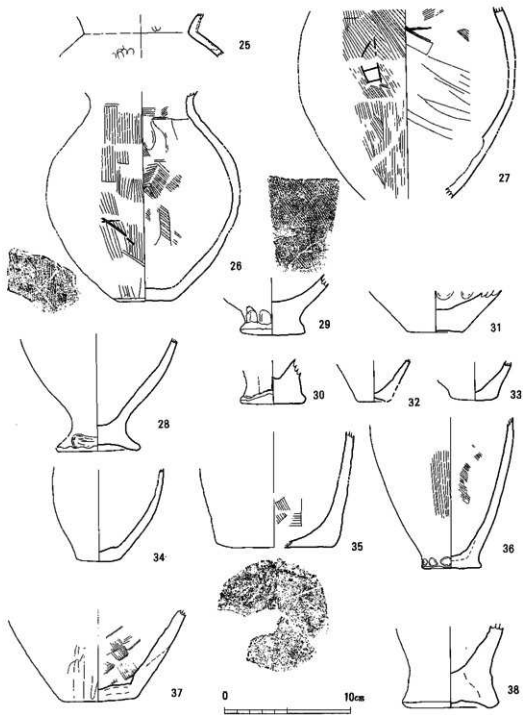
③は比較的細身の磨製石鏃。全長3.4cm、最大幅1.4cm、最大厚0.2cmを測る。緑色凝灰岩である。



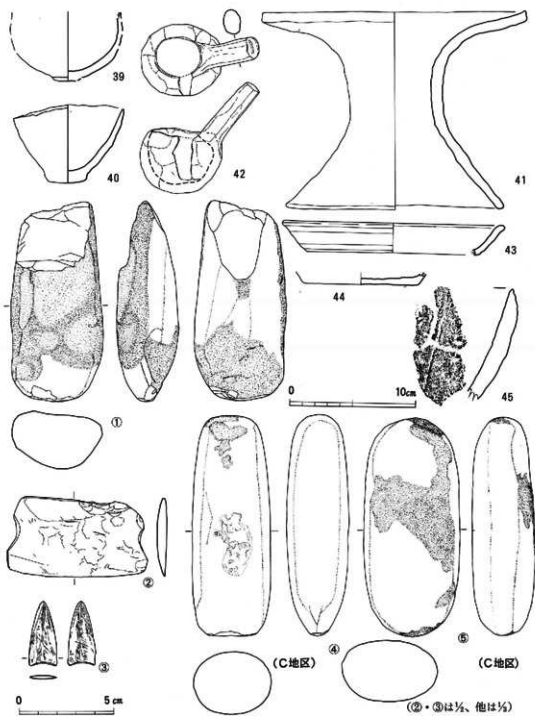
第3图 B地区出土遗物 (1)



第4图 B地区出土遗物 (2)



第5图 B地区出土遗物(3)



第6図 B地区出土遺物 (4)・C地区出土遺物 (1)

3. 園田遺跡C地区（2次）の調査

(1) 調査の概要

江ノ口橋以西の左岸をC地区とした。東西約70m、南北約70mの三角地帯である。標高5m前後の低地で、現況は畑地および廃棄地であるが調査当時は江ノ口橋架け替え工事のために1m程の盛土がなされていた。C地区は、昭和61年3月に1次調査が行われており、2次調査は1次調査の東側にあたる。1次調査では弥生時代後期後半期を中心に弥生時代中期から古墳時代（庄内期）にかけての土器溜りが検出されている。

調査は新江ノ口橋の架け替え工事と平行して行った。橋の西側に設けられた仮設道路のすぐ脇に重機で橋と平行に幅6m、長さ30mトレンチを入れた。トレンチ内の土層は1m近くの盛土がなされているほかは1次調査とほぼ同じ状態で黄灰～灰、褐色～黒褐色、暗オレンジ色等の色調の砂質土が堆積している。遺物はトレンチ北側の灰褐色砂土や灰色粘質土を中心に弥生土器や土師器、石器などが出土した。遺物の集中したトレンチ北側は西側方向に拡張して遺物の収集を行った。

(2) 調査の結果

a. 遺構

今回のC地区2次調査では遺構の検出はなかった。なお、1次調査でも遺構は検出されていない。

b. 遺物

土器

壺形土器（第7図1～9、第8図10～15、第9図16～26）

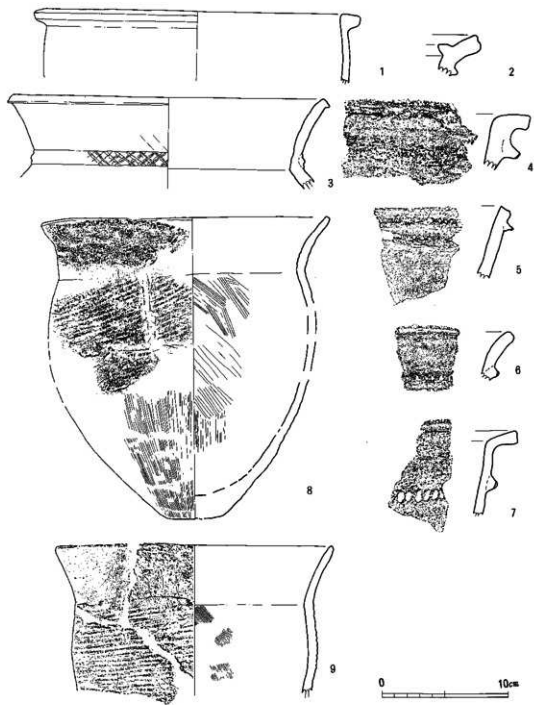
1・2・4は逆「L」字口縁を有する壺。1は復元口径25.5cmで口縁部下には突帯は見られない。2はやや口縁が立ち気味で内面に突帯を巡らす。4は口縁部下に突帯を持ち断面の厚みから大型の壺と思われる。2と4は表面が研磨されている。

3・6は「く」の字口縁を持ち頸部に刻目突帯を巡らす壺。3は復元口径25.3cmで幅広の突帯に長めの刻目が施されており2～3カ所で交差する。

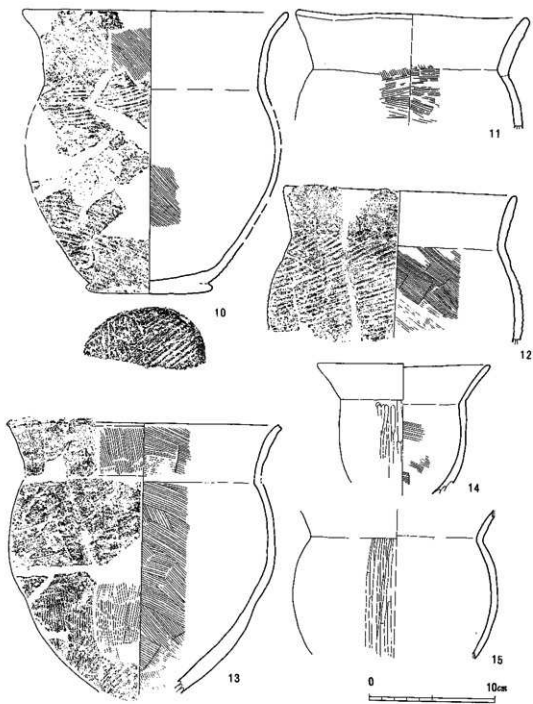
5は直線的に開く口縁部の上部に刻目突帯を1条巡らす。

7は中溝式の典型的な壺の口縁部である。

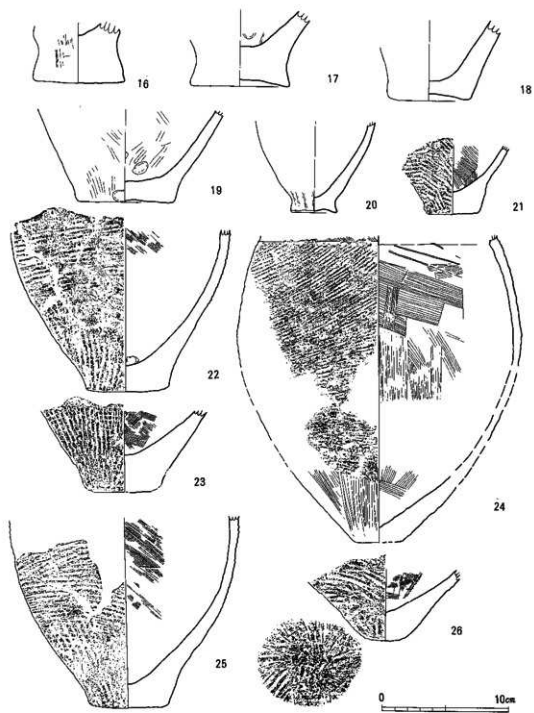
8～15は「く」の字口縁の壺。8～10・12・13は叩き目調整を施す壺。8は完形で口径22.3cm、



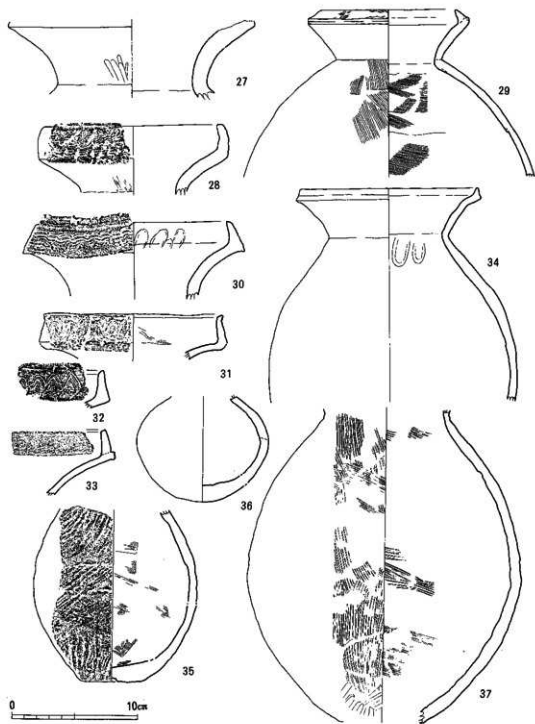
第7图 C地区出土遗物 (2)



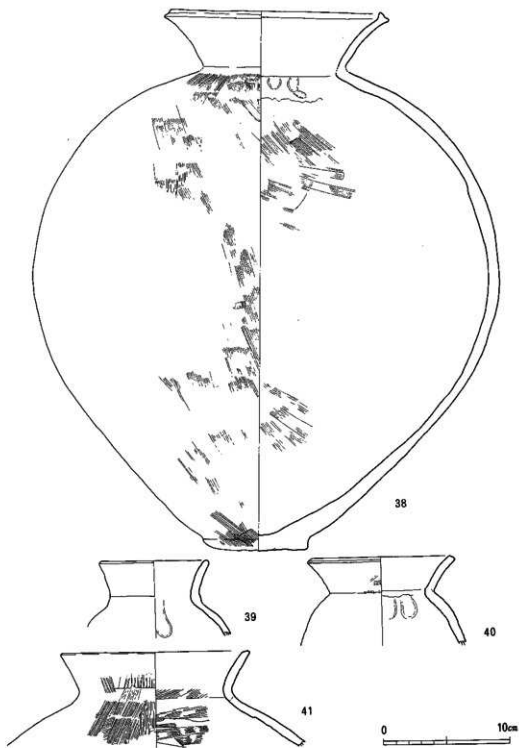
第8图 C地区出土遗物 (3)



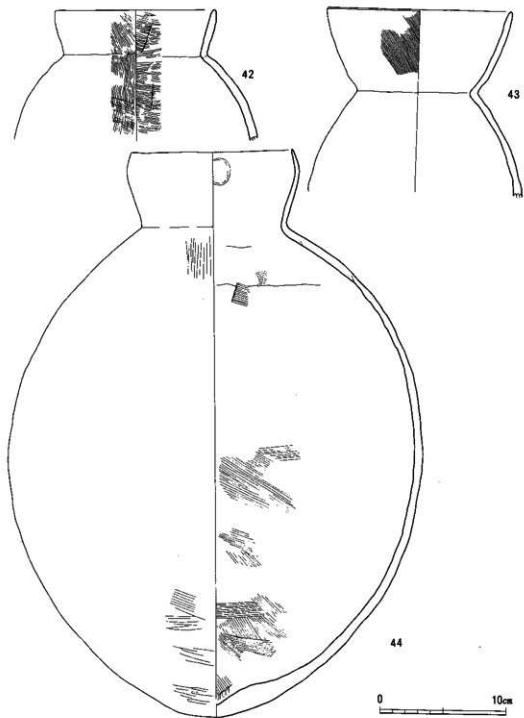
第9图 C地区出土遗物 (4)



第10图 C地区出土遗物 (5)



第11图 C地区出土遗物 (6)



第12图 C地区出土遗物 (7)

器高24.8cmを測り比較的胴部の張る器形を呈する。底部は丸底気味の平底である。叩きは頸部から胴部中央にかけて施されている。9は復元口径22cmを測り肩の張らない器形を呈する。叩きは頸部下に施されている。10は口縁部から底部までを有するもので復元口径21cm、器高22.2cmを測る比較的胴部の張る器形を呈し底部は張り付け状の平底を持つ。叩きは頸部から底部にかけて施している。12は復元口径18.6cmを測る胴部の張った器形を呈する。叩きは頸部下に施されている。13は口縁部から胴部下部までを有するもので復元口径21.7cmを測る胴部の張った器形を呈する。底部を欠くが8に近い底部を持つと思われる。叩きは胴部上部にのみ施されている。

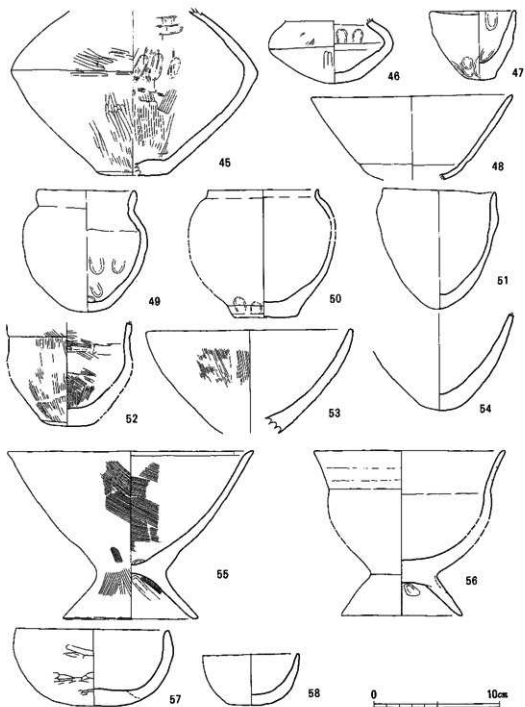
11は復元口径18.5cmを測る胴部の張る器形を呈する。頸部から胴部にかけてハケ目調整が施されている。12は復元口径13.7cmと小型で胴部の張らない器形を呈する。胴部外面はヘラ磨きで調整されている。15は口唇部と底部を欠く。復元胴部径15.2cmを測り胴部外面はヘラ磨きで調整されている。

16～20はハケ目調整を施す壺の底部である。21～26は叩き目調整を施す壺の底部である。21～23・25はやや厚みを持つ平底を呈し、叩きは底部まで施してある。24は頸部から底部までを有する。叩きは底部には見られず頸部から胴部下部にかけて施されている。26は尖り気味の丸底を呈する。叩きは底部まで施されている。

壺形土器（第10図27～37、第11図38～41、第12図42～44、第13図45・46）

27～33は二重口縁壺である。27・28・30～33は口縁部で28は内湾気味の二重口縁で復元口径14.2cmを測る。横方向の櫛描波状文が施されている。30は内傾気味の二重口縁で復元口径15.6cmを測る。横方向の櫛描波状文が施されている。31は直立気味の二重口縁で復元口径14.2cmを測る。縦方向の櫛描波状文が施されている。32は直立気味の二重口縁で縦方向の櫛描波状文が施されている。33は直立気味の二重口縁で口縁部を張り付けた状態が観察できる。横方向の櫛描波状文が施されている。29は内傾気味の短い口縁が付く二重口縁壺である。復元口径10.7cmを測る胴部の張った器形を呈する。口縁部には数条の櫛描波状文が施されている。

34・38～41は大きく外反する「く」の字口縁を持つ壺である。34は口唇部の上部が肥厚しており復元口径14cmの胴部の張らない壺である。38は口縁部から底部まで残る。復元口径16.6cm、胴部最大径37.9cm、器高42.5cmを測る。口唇部は上下に肥厚し稜線を有する。胴部が張り底部は張り付け気味の平底となる。39は復元口径8.6cmの小型の壺である。口縁の傾きはやや立ち気味である。40は復元口径11.7cmの小型の壺である。口縁はやや傾く。41は復元口径14.9cmで口縁のやや傾く胴部の張る壺である。



第13图 C地区出土遗物 (8)

42は直立気味の口縁を持つ壺である。復元口径12.7cmを測る。

43・44は内湾気味の口縁を持つ壺である。43は復元口径14.6cmを測る。口縁部は全体的に内湾し立上がりが高い。また胴部の張りも少ない。44は完形で口径12.8cm、胴部最大径32.9cm、器高44.6cmを測る。口縁部は直立気味に立上がりながら口唇部付近で内湾する。胴部は倒卵形を呈し底部は丸底である。

35～37は壺の胴部から底部である。35は口縁部を欠く長胴タイプの平底の小型壺。胴部最大径は13.0cmを測る。頸部から胴部下にかけて叩き調整が施されている。36は口縁部を欠く球形胴部の丸底の小型壺。胴部最大径は10.5cmを測る。37は口縁部と底部を欠く倒卵形の胴部で底部は丸底と思われる。

45・46はそろばん玉状の胴部を持つ壺で頸部から底部を有する。45は口縁部を欠くが長頸壺と思われる。胴部最大径は19.5cmを測り底部は平底である。46は口縁部を欠く。胴部最大径は10.0cmを測り丸底気味の底部を呈する。短く直立するタイプの口縁部が考えられる。

手捏ね土器（第13図 47）

口径6.9cm、器高5.5cmの比較的器厚の厚いしっかりした作りの完形品である。

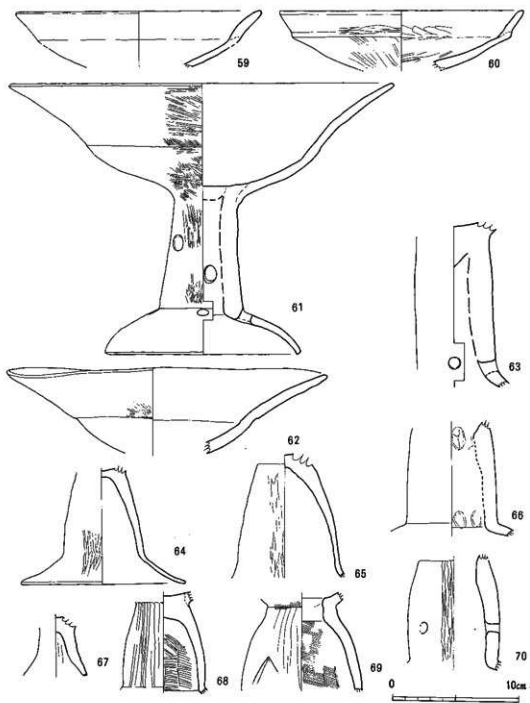
鉢形土器（第13図 48～56）

48は底部を欠くが復元口径16.0cmで推定器高7cm前後の小型丸底土器に類似した鉢である。丸底と思われる底部から1～2cmに稜を持ち口縁部に向かって大きく外反する。器厚は薄い。

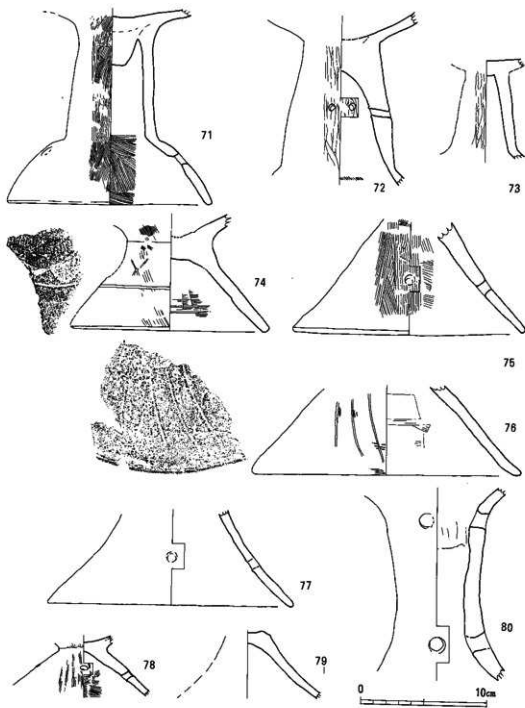
49・50・52は胴部が球形をなし頸部を持つ小型壺に類似した鉢。49は底部が丸底で口縁部が直立気味に外反する。口径7.6cm、器高9.7cmの完形品である。50は底部が平底で短い口縁部が垂直に立上がる。口径8.7cm、器高10.1cmを測る。52は口縁部を欠くが頸部から外反すると思われる。底部は丸底気味の平底を呈する。頸部径は9.6cmを測る。

51・53・54は頸部を持たず尖り気味の底部から口縁部に向かって外反する鉢。51は口径8.9cm、器高9.4cmの口縁部の狭まった鉢で口縁部にわずかに稜を持つ。53・54は口縁部の開いた鉢で53は底部を欠き復元口径16.1cmを測る。54は口縁部を欠くが口縁部近くまで残存する。

55・56は脚台付きの鉢。いずれの脚台も3～4cmと比較的高い。55の鉢部は底部から大きく外反する。復元口径19.4cm、器高13.2cmを測る。56は鉢部は球形を呈する。頸部を持ち長めの口縁部は外反する。復元口径15.1cm、器高13cmを測る。



第14图 C地区出土遗物 (9)



第15图 C地区出土遗物 (10)

碗形土器 (第13図 57・58)

57は口径12.1cm器高6cmを測る。口縁端部がわずかに内湾する。ヘラ磨きで外面を調整する。

58は口径7.5cm、器高3.9cmと小型の碗である。

高坏形土器 (第14図 61~68・70、第15図 71~79)

59・60・62は坏部である。59・60は坏部中程より上部に稜を持ち口縁部は短く外反する。59・60とも坏部復元口径19.4cmを測る。62は坏部中程より下部に稜を持ち口縁部が大きく外反する。坏部復元口径25.5cmを測る。

61は唯一坏部から脚部までが残存する。坏部復元口径30.5cm、器高21.4cmを測る。坏部は62同様、坏部中程より下部に稜を持ち口縁部が大きく外反する。脚部は下部のやや広がる円筒形の脚に碗状の裾部が付く。脚部に二段の透かしが二ヶ所ずつと裾部に4ヶ所の透かしが見られる。

63~79は脚部である。63・66は円筒形の脚。63は下部に透かしが見られる。64・65・68・70は膨らみを持ちながら緩やかに開く脚。70には2ヶ所に透かしが見られる。67・72は外反気味に開く脚。このうち72は2個ずつの透かしが3ヶ所に見られる。このうち裾部を有するものは64と71で、64は屈曲部を持ち大きく開く裾部が付く。裾部径は13.2cmを測る。71は61と類似しており屈曲部を持ち碗状の裾部が付く。裾部径は16.2cmを測る。裾部に4ヶ所の透かしが見られる。

74~79は裾部まで「八」の字に大きく開く脚部である。75は裾部復元径18.6cm、77は裾部復元径19.5cmを測る。いずれも透かしが見られる。74は裾部復元径15.7cmを測り脚部中央に1条の沈線とその上部に「×」印の記号が刻まれている。また、76は裾部復元径21.6cmを測り縦方向に3条の沈線が刻まれている。78は小型の高坏である。坏部上部と裾部が欠損する。4ヶ所に透かしが見られる。

器台形土器 (第15図80)

80は上下にラッパ状に広がる器台。受け部上部と裾部を欠く。胴部上下に2段の透かしが見られる。

石器 (第6図 ④・⑤)

④は全長17.3cm、最大幅6.3cm、最大厚4.9cmを測る石斧。石材は中粒砂岩を用いている。

⑤は扁平な楕円形のたたき石。全長15.2cm、最大幅7.6cm、最大厚4.7cmを測る。上部や下部の他に側面にも叩き痕が残る。

その他、図面は掲載していないが、溶結凝灰岩製の磨石3点も出土している。計測値はそれぞれ径9.2cm~8.2cm、厚み4.9cm。径9.2cm~8.0cm、厚み4.8cm。径9.8cm~9.0cm、厚み4.7cmである。

4. まとめ

今回の報告の昭和61年度調査分を含め国道10号線より東の鬼付女川流域（左岸）で行われた本調査は7次に及ぶ。そのうち鬼付女川河川改修工事に伴う県教育委員会調査は4次で昭和59年度調査の鬼付女西遺跡A地区1次調査およびB地区、昭和60年度調査の鬼付女西遺跡A地区2次調査、昭和61年度調査の園田遺跡B地区およびC地区である。また、新富町の区画整理事業に伴いB地区に隣接する園田遺跡の調査も3次行われている。鬼付女西遺跡B地区では弥生時代後期の竪穴住居跡2軒と周溝状遺構1基が検出されている。また、新富町教育委員会調査の園田遺跡からは3回の調査で弥生時代後期の竪穴住居跡6軒が検出されている。さらに、園田遺跡の所在する砂丘上には弥生時代前期の板付式の壺形土器を出土した今別府遺跡や昭和39年の園田橋の架け替え工事の際に弥生土器や石器が発見された三納代遺跡などが分布する。まとめでは今回の調査結果のうちB地区で検出された竪穴住居とC地区で検出された土器溜り出土の土器について若干ふれて見たい。

(1) 竪穴住居について

B地区で検出された竪穴住居跡は確認できたプランの一部から一辺8m～8.5mの規模が推定できた。しかし、砂層での検出のためかプランは不明瞭であり柱穴も確定できなかったうえに、北側に他の住居跡との切り合いの可能性もあるなど住居跡の概要については記述しにくい。

B地区出土の土器は大別すると、下城式の甕（第3図6ほか）や逆「L」字状口縁の甕（第3図1ほか）など中期的な様相の見られる土器。「く」の字口縁の頸部に刻目突帯を巡らす甕（第3図11）、記号文を施す比較的小型の壺（第4図20ほか）、ラッパ状に開く器台（第6図41）、杓子状土器など後期後半から終末にかけての様相の見られる土器、また、前期の様相を持つ頸部が短く大きく横に短く開く壺（第3図13）などが見られる。出土量や出土状況から住居跡の時期としては後期後半に比定できるであろう。

(2) 土器溜り出土の土器について

C地区は一次調査の結果でも述べていたように土器溜りとしての性格が考えられる。出土した土器群を大きく分類すると、中期の土器としてはB地区同様下城式の甕（第7図5ほか）や逆「L」字状口縁の甕（第7図1ほか）などがあげられる。後期前半の土器としては逆「L」字状の口縁を持つ大型の甕（第7図4）、中溝式の甕（第7図7）があげられる。後期後半の土器と

しては「く」の字口縁の頸部に刻目突帯を巡らす甕（第7図3ほか）、櫛描波状文を施す二重口縁壺（第10図28ほか）、坏部上位に稜線をもつ高坏（第14図59ほか）などがあげられる。さらに終末期から古墳時代初頭の土器としては叩き調整の甕（第7図8ほか）、内湾する口縁部に倒卵形の胴部と丸底の底部がつく壺（第12図44ほか）、櫛描波状文を施す二重口縁壺（第10図29ほか）、坏部下位に稜線を持ち大きく外反する高坏（第14図61ほか）などがあげられる。

C地区に形成された土器溜りには弥生時代後期を中心に中期の土器がわずかにふくまれる。また古墳時代初頭の土器も見られる。瀬戸内系の凹線文土器等は見られないが1次調査と内容は類似する。

B地区では弥生時代後期を中心に中期から終末期にかけての土器が見られた。両地区はともに鬼付女川左岸に位置しており距離的にも700m～800mと近いが、B地区は集落の先端部、C地区は土器溜りと遺跡の性格は違う。出土土器からもC地区ではB地区で多く見られた記号文を施す壺が、B地区ではC地区で見られた叩き調整の甕、二重口縁壺、脚台付碗、高坏などが見られないなど違いが見られる。遺跡の性格や微妙な時期差が考えられる。

いずれにしても、今回の調査を含めた国道10号線以東の鬼付女川左岸の発掘調査で第四砂丘上に営まれた弥生時代から古墳時代にかけて遺跡の一端が明らかになった。特に、園田遺跡B地区では弥生時代後期の住居跡が検出され砂丘上に立地する集落を知る手がかりを得た。区画整理に伴う新富町教育委員会の調査でもB地区の隣接地で住居跡4軒が検出されており集落の広がりを知るうえで報告が待たれる。

【参考文献】

- (1) 宮崎県教育委員会「鬼付女西遺跡」『宮崎県文化財調査報告書』第32集 1990年
- (2) 宮崎県教育委員会「園田遺跡」『宮崎県文化財調査報告書』第33集 1991年

表1 日地区出土土器観察表 (1)

区 別 器 種	器 部	調 整		焼 成	色 調		胎 土	備 考	
		外 面	内 面		外 面	内 面			
1	甕	口縁 ~胴	風化の為不明	風化の為不明 ナデ?	良	明褐色	明褐色	金色に光る砂粒を含む	3条の突帯
2	甕	口縁	風化の為不明	風化の為不明	良	浅黄橙	浅黄橙	黒・茶色の砂粒を多く含む	4条の突帯が残る
3	甕	口縁	風化の為不明	剥落の為不明	良	淡黄	灰黄	0.2~1ミリの灰・褐色の砂粒を多く含む	
4	甕	口縁	風化の為不明	風化の為不明 ナデ?	良	橙	橙	0.2~1ミリの白灰の砂粒を含む	2条の突帯
5	甕	口縁	風化の為不明	風化の為不明	良	橙	橙	2ミリの砂粒を多く含む	
6	甕	口縁	風化の為不明	風化の為不明	良	におい橙	橙	白色、透明で光る砂粒を含む	
7	甕	口縁	ナデ	ナデ	良	におい褐	におい褐	光る砂粒を含む	ノ方向の刻み目
8	甕	口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	良	におい橙	橙	2ミリの茶・白色の砂粒を含む	口唇部…ナデ方向の刻み目 口縁部…三角刻み目突帯
9	甕	口縁	ヨコナデ ノ方向のハケメ	ナデ	良	におい黄橙	におい黄橙	0.2~2ミリの褐灰色の砂粒を少し含む	三角刻み目突帯
10	甕	口縁	風化の為不明	風化の為不明	良	橙	橙	1~3ミリの砂粒、黒く光る砂粒を含む	口唇部…ナデ方向の刻み目 口縁部…三角刻み目突帯
11	甕	口縁 ~胴	口縁…ヨコナデ 胴…ヨコナデ、ノ方向のハケメ	風化の為不明	良	橙	橙	2ミリ前後の黒、白、茶色の砂粒を含む	三角刻み目突帯
12	甕	口縁	ヨコナデ、指押さえ、ヨコ・タテ方向のハケメ	指押さえの後ヨコ・ノ方向のハケメ、ヨコノ方向のハケメ	良	浅黄橙	橙	2ミリの茶、白色の砂粒を含む	
13	甕	口縁	ナデ、ヨコ、タテ方向のナデ	ヨコナデ	良	黄橙	黄橙	2ミリ以下の茶灰色の砂粒、1ミリ以下の黒く光る、黒色透明で光る砂粒を含む	
14	甕	口縁	風化の為不明、一部ナデ	ナデ	良	橙	橙	1ミリ以下の褐色、黒く光る砂粒を含む	

表2 B地区出土土器観察表(2)

図 番 号	器 種	器 形	調 整		焼 成	色 調		胎 土	備 考
			外 面	内 面		外 面	内 面		
15	壺	口縁 へ削	風化の為不明	風化の為不明 削…指押さえ	良	浅黄橙	浅黄橙	1ミリ~3ミリの茶・灰・白色の砂粒を多く含む	
16	壺	口縁	ヨコナデ、\、 方向ハケメ、 指押さえ	ヨコ、\方向 のハケメ	良	橙	橙	2ミリの茶色の砂粒を含む	
17	壺	口縁	ヨコナデ、\、 方向のハケ メ	ヨコ方向のハ ケメ、ナデ	良	橙	橙	2ミリの灰・白 色の砂粒を少し 含む	
18	壺	口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	良	浅黄橙	浅黄橙	1ミリの茶色の砂粒を含む	
19	壺	口縁 へ削	口縁…ヨコナ デ、指押さえ 削…タテ・\、 方向ハケメ	口縁…ヨコ・ \方向のハケ メ 削…ナデ、指 押さえ、ヨコ・ \方向のハケ メ	良	橙	におい黄橙	2ミリの白・茶 色の砂粒を含む	
20	壺	口縁 へ削	口縁…ナデ、 ヨコナデ 削…タテ、\、 方向のハケメ	口縁…ナデ 削…ナデ、指 押さえ	良	におい黄橙	におい黄橙	1ミリの砂粒を 含む	外面…線刻
21	壺	胴	タテ・\方向 のハケメ ヨコ・タテ方 向のヘラケズ リ	ナデ、\方向 のハケメの後 指押さえ、\、 方向のハケメ タテ方向のヘ ラケズリ	良	浅黄橙 灰黄褐	灰黄褐	3ミリ以下の黒・ 灰白色の砂粒、 透明で光る微砂 粒を少し含む	
22	壺	胴	風化の為不明	風化の為不明	良	黄橙	黄褐	2ミリの灰・白・ 茶色の砂粒を含 む	
23	壺	胴	ナデ、タテ・ \方向のハケ メ	ナデ、指押さ え、\方向の ハケメ、タテ 方向のヘラケ ズリ	良	橙 明黄褐	橙 におい赤褐	4ミリ以下の茶・ 褐色の砂粒を少 し、透明で光る 微砂粒を含む	
24	壺	胴	タテ・\方向 のヘラミガキ、 \方向のハ ケメ	風化気味ナデ? ヨコ方向のハ ケメ…落ちる	良	におい黄橙	灰色	3ミリ以下の褐 灰・茶色、1.5 ミリ以下の灰白 色の砂粒、黒色 で光る微砂粒を 含む	外面…線刻 “ ”…一部に黒 色部分有り

表 3 B地区出土土器観察表 (3)

原形番号	器種	器部	調 整		焼成	色 調		胎 土	備 考
			外 面	内 面		外 面	内 面		
			25	壺		頸	ミガキ		
26	壺	頸 ~底	胴→ナデ、\方向 のハケメ 底→ナデ、指ナ デ、指押さえ	胴→ナデ、ヨコ \方向のハケメ 胴→\方向の ハケメ、指ナデ 底→風化の為不 明	良	淡黄 褐色	橙 暗赤褐色	0.1ミリ~3ミリの 砂粒を多く含む	外面→線刻あり
27	壺	胴	ナデ、\方向の ハケメ	\方向のハケ メ \方向のヘラケ ズリ	良	浅黄褐色	褐灰	2ミリ以下の灰白・ 茶褐色の砂粒を少し 含む	外面→線刻あり
28		胴 ~底	胴→ナデ 底→ナデ、指押 さえ	胴→ナデ 底→ナデ	良	にぶい黄褐色	浅黄褐色	2ミリ以下の灰・白・ 褐色の砂粒を含む 光る砂粒を含む	底→あげ底
29		底	ナデ、指押さえ	ナデ	良	にぶい黄褐色	にぶい褐色	1ミリの白色の砂粒 を含む 1ミリ~2ミリの砂 粒を含む	
30		底	ナデ、指押さえ	ナデ	良	にぶい褐色	にぶい褐色	0.5ミリ~1.5ミリの 砂粒を含む	
31		底	ナデ	ナデ、指押さえ	良	褐色	浅黄褐色	1ミリ~2ミリの灰 色・透明で光る砂粒 を含む	
32		底	ナデ	風化の為不明	良	褐色	浅黄褐色	2ミリ以下の茶・灰 色の砂粒を含む	あげ底
33		底	風化の為不明	風化の為不明	良	浅黄褐色	淡黄	0.5ミリ~4ミリの 灰・茶色の砂粒を含 む	
34		胴 ~底	胴→ナデ 底→ナデ	胴→ナデ 底→ナデ	良	褐色	明黄褐色	1ミリ~2ミリの白・ 茶色の砂粒を含む	外面→黒色あり
35		胴 ~底	胴→風化の為不 明 底→ナデ	胴→ナデか? 底→ナデ、\方 向、ヨコ方向の ハケメ	良	褐色	灰	1ミリの砂粒を含む	底→木葉底
36		胴 ~底	胴→ナテ方向の ハケメ 底→指押さえ	胴→\方向のハ ケメ 底→ナテ	良	浅黄褐色	淡黄	0.5ミリ~2ミリの 白・灰・茶・黒色の 砂粒を含む	外面→黒色あり
37		胴 ~底	胴→ナテ方向のミ ガキ 底→ナテ方向のミ ガキ、ナデ	胴→\方向のハケ メ 底→\方向のハケ メ	良	にぶい黄褐色	灰	透明な砂粒を含む 0.1ミリ~3ミリの 砂粒を含む	

表4 日地区出土土器観察表 (4)

器 種 類	器 部	調 整		焼 成	色 調		胎 土	備 考	
		外 面	内 面		外 面	内 面			
38		胴 ～底	風化の高不明	風化の高不明	良	橙	褐灰	0.1ミリの灰・2ミリの 茶・灰・褐色の砂粒 を含む	底…あげ底
39	鉢	胴 ～底	ナデ 風化している	ナデか?	良	淡黄	淡黄	1ミリの砂粒を含む	
40	鉢	口縁 ～底	風化の高不明	風化の高不明	良	明黄褐 に近い黄橙	橙	0.5～3ミリの灰・白 の粒を多く含む	外面…黒色あり
41	器台	口縁 ～脚	風化の高不明	風化の高不明	良	橙	橙	2～5ミリの灰・う す茶を含む	
42	杓子 状土器	身 ～柄	風化の高不明	風化の高不明	良	淡黄	淡黄	1ミリの砂粒を含む	
43	環	口縁 ～底	ヨコナデ	ヨコナデ	良	淡黄橙	淡黄橙	きめ細かい細砂粒を 含む	
44	環	底	ヨコナデ	ヨコナデ	良	橙	淡黄橙	きめ細かい細砂粒を 多く含む	ヘラ切底
45	布版 土器	口縁	ナデ	布目	良	橙	橙	0.5～2ミリの灰・ うす茶の砂粒及び5 ～8ミリの砂粒を含 む	

表5 C地区出土土器観察表 (1)

図 番 号	器 種	器 部	調 整		焼 成	色 調		胎 土	備 考
			外 面	内 面		外 面	内 面		
1	壺	口縁	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	良	にぶい橙	浅黄橙	2.5ミリ以下の赤・ 灰色の砂粒、1ミリ 以下の黒色で光る・ 無色透明で光る砂粒 を含む	
2	壺	口縁	口唇部…割線 文 ヨコ方向のミガ キ	ヨコ方向のミガ キ	良	にぶい赤褐	にぶい赤褐	0.5～2ミリの茶褐 色の砂粒を含む 0.5ミリ以下の光る 砂粒を少し含む	内面…朱が残る
3	壺	口縁	風化著しい為不 明	風化著しい為不 明	良	淡橙	浅黄橙	1～4ミリの灰・茶 褐色の砂粒を多く含 む	斜め格子状の刻 目突帯
4	甕	口縁	風化の為不明	ナデ	良	明褐	明褐	1.5ミリ以下の茶褐 色の砂粒を多く含む 1ミリ以下の白・灰 褐色の砂粒0.5ミリ 以下の光る砂粒を少 し含む	刻目突帯
5	壺	口縁	ヨコナデ ナデ・斜め方向 のハケメ	斜め方向のハケ メ、ナデ	良	黒褐	黒褐	3ミリ以下の白・黒 色の砂粒、無色透明 で光る細砂粒を含む	口唇部…やや斜 め方向の刻目 三角突帯刻目 外面…スス付着
6	壺	口縁	ヨコナデ	ナデ(風化して いる)	良	灰黄褐	にぶい褐	4ミリ以下の淡黄・ 褐色の砂粒、1ミリ 以下の白・黒くて光 る、無色透明で光る 砂粒を含む	三角刻目突帯
7	壺	口縁	スス付着の為調 整不明	ナデ	良	黒	黒	2ミリ以下の褐色、 1ミリ以下の白色・ 無色透明で光る砂粒 を含む	三角刻目突帯 外面…スス付着
8	甕	口縁 ～底	口縁…Y方向の タタキ 胴…Z方向のタ タキ タナ方向のハケ メ 底…タナ方向の ハケメ、ナデ	口縁…ナデ 胴…タナ・Y方 向のハケメ 底…ナデ	良	浅黄 浅黄橙	淡橙 淡黄	3ミリ以下の茶・褐・ 灰白色の砂粒を多く、 1ミリ以下の透明で 光る砂粒を少し含む	外面…スス付着 内面…底部に黒 色部分有り
9	壺	口縁 ～胴	口縁…ヨコナデ 胴…ヨコ方向の タタキ	口縁…ヨコナデ 胴…Y方向のハ ケメ、ナデ	良	淡黄	灰色	1～2ミリの灰白・暗 灰・褐色の砂粒を多 く含む。金色、黒く 光る砂粒を少し含む	
10	壺	口縁 ～底	口縁…ヨコナデ、 Y方向のハケメ 胴…ヨコ方向のタ タキ、Y方向 のタタキ 底…ナデ	口縁…風化の為 不明 胴…Y方向のハ ケメ 底…ヨコナデ、 ナデ	良	にぶい橙 褐灰	にぶい橙 褐灰	0.2～3ミリの褐・ 灰色の砂粒を含む	木の葉底

表6 C地区出土土器観察表 (2)

原形番号	器種	器部	調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
11	甕	口縁 へ胴	口縁→ヨコナデ 胴→タテ・ヨコ ノ方向のハ ケメ	口縁→ヨコナデ 胴→ヨコ・ノ方 向のハケメ	良	橙 にぶい橙	灰黄 黄灰 にぶい橙	1~2ミリの灰・白 色の砂粒を多く含む	
12	甕	口縁 へ胴	口縁→ヨコナデ 胴→ノ方向のタ タキ	口縁→ヨコナデ 胴→ノ方向のハ ケメ	良	淡赤橙 黄	淡赤橙 明褐	3ミリ以下の黒・褐色、 透明で光る砂粒 を多く含む	
13	甕	口縁 へ胴	口縁→ヨコナデ、 タテ、ハ ケメ 胴→ヨコ方向の タタキの後 ナデ、タテ 方向のハケ メ、ノ方向 のタタキの 後ナデ	口縁→ヨコナデ、 ノ方向の ハケメ、 ヨコ方向 のハケメ 胴→ノ方向のハ ケメ	良	にぶい橙 ～ 淡黄橙	淡黄 明褐	1~4ミリの白・灰・ 褐色の砂粒を多く含 む	
14	甕	口縁 へ胴	口縁→風化意味 ミガキ? 胴→タテ方向の ヘラミガキ	口縁→風化の為 不明 胴→ノ方向のハ ケメ	良	にぶい橙 橙	にぶい橙	灰色、透明で光る、 黒くて光る砂粒を含 む	
15	甕	口縁 へ胴	口縁→ヨコナデ 胴→タテ方向の ヘラミガキ	ナデ	良	にぶい橙	明褐	1~2ミリの白・茶 褐・赤褐・灰色の砂 粒を多く含む	
16	底		タテ方向のハケ メ、ナデ	ナデ	良	にぶい橙	にぶい褐	0.5~5ミリの灰褐色 の砂粒、1ミリ以下 の白・褐色の砂粒を 含む。0.5ミリ以下の 黒色で光る砂粒を少 し含む	
17	底		ヨコナデ、ナデ	ナデ、指押さえ	良	灰黄褐	オリーブ黒	0.5~2ミリの黒・灰 褐色の砂粒を多く、 白色の砂粒を少し含 む。1ミリ以下の透 明、黒色の光る砂粒 を含む	外面 内面 } スス付着
18	胴 へ底	胴 へ底	胴→タテ・ノ方 向のハケメ 底→ナデ、指押 さえ、ヨコ ナデ	胴→ハケメの後 ノ方向のミガ キ 底→指押さえ、 ナデ	良	にぶい褐	にぶい褐	5ミリ以下の灰・淡 黄色の砂粒、2.5ミリ 以下の白色で光る、 無色透明で光る砂粒 を含む	外面 内面 } 部分に わずかに スス付着
19	胴 へ底	胴 へ底	胴→風化の為不 明 底→ナデ	風化の為不明	良	淡黄橙	橙	8ミリ以下の乳白色 の砂粒を多く、6ミ リ・4ミリの茶色の 砂粒、11ミリの砂粒 を含む	

表7 C地区出土土器観察表 (3)

図 番号	器 種	調 整		焼 成	色 調		胎 土	備 考
		外 面	内 面		外 面	内 面		
20	胴 ～底	ナデ、指押さえ	ナデ	良	灰白	灰黄	3ミリ以下の藍色、2ミリ以下の茶色の砂粒、透明で光る黄砂粒を含む	外面…一部に黒色部分有り
21	胴 ～底	胴…\方向のタタキ 底…ナデ	\方向のハケメ	良	にぶい黄橙 にぶい赤褐	橙	2ミリ以下の茶・灰白の砂粒、透明で光る砂粒を多く含む	内面…黒色部分有り
22	胴 ～底	胴…タナ・ヨコ方向のタタキ 底…風化の高不明	胴…風化一帯\方向のハケメ残る 底…指押さえ	良	赤褐 橙 淡黄橙	赤褐 橙 淡黄橙	0.5～2ミリの灰・茶色、半透明の砂粒を多く含む。透明で光る、黒くて光る砂粒を少し含む	
23	胴 ～底	胴…タナ・\方向のタタキ 底…ナデ	\方向のハケメ	良	淡黄橙 明褐	淡黄橙 明褐	3ミリ以下の灰色の砂粒、2ミリ以下の茶・白色の砂粒、0.5ミリ以下の黒くて光る、透明で光る砂粒を含む	
24	胴 ～底	胴…タタキの後\方向のハケメ、ヨコ・\方向のタタキ、タナ方向のハケメ 底…ナデ	胴…ナデ、\方向のハケメ 底…\方向のハケメ	良	橙	橙	4ミリ以下の黒・茶・灰白色の砂粒を多く含む	外面…スス付着
25	胴 ～底	胴…タナ・ヨコ・\方向のタタキ 底…風化の高不明	胴…\方向のハケメ 底…指押さえ	良	赤褐 淡黄橙	赤褐 淡黄橙	透明で光る、黒くて光る砂粒を少し、0.5～2ミリの灰・茶色の砂粒を含む	外面…部分的にスス付着
26	胴 ～底	\方向のタタキ	ヨコ・\方向のハケメ	良	灰白 淡赤橙	黒	5ミリ以下の灰色の砂粒、2.5ミリ以下の茶・白色の砂粒、数粒無色透明で光る砂粒を含む	
27	壺	口縁 ヨコ・\方向のナデ、一部\方向のミダキ	ヨコ・\方向のナデ	良	明赤褐 赤褐	赤褐	2ミリ以下の黒褐・灰黄色の砂粒、1ミリ以下の白・赤色・無色透明で光る、黒くて光る砂粒を含む	
28	壺	口縁 ～頸 タナ方向のハケメ 風化している	ヨコナデ	良	灰白 橙	にぶい橙	1～2ミリのうす茶・白っぽい色の砂粒を含む	外面口縁…縞縞波状文
29	壺	口縁 ～胴 \縁…ヨコナデ 胴…タナ・\方向のハケメ	\縁…ヨコナデ 胴…\方向のハケメ	良	淡黄橙	淡黄橙 灰白	0.5～2ミリの灰・白・茶色の砂粒を多く含む	外面口縁…縞縞波状文

表8 C地区出土土器観察表(4)

実測番号	器種	器部	調 整		焼成	色 調		胎 土	備 考
			外 面	内 面		外 面	内 面		
30	壺	口縁	ヨコ・タテ方向のナデ	ヨコ・ノ方向のナデ、指押さえ	良	橙 にぶい赤褐	淡橙 暗赤褐	3ミリ以下の灰白・褐色の砂粒を少し含む	外面口縁…櫛歯波状文
31	壺	口縁	ヨコ・ノ方向のナデ	ナデ、ノ方向のヘケメ	良	淡黄	淡黄	3.5ミリ以下の灰色の砂粒、1.5ミリ以下の灰白色の砂粒、量少な黒くて光る黒色透明で光る砂粒を含む	外面口縁…櫛歯波状文
32	壺	口縁	ヨコ方向のヘケメ	ヨコ方向のヘケメ	良	橙	橙	3ミリ以下の淡黄・白色の砂粒、2ミリ以下の灰色、透明で光る砂粒を含む	外面口縁…櫛歯波状文
33	壺	口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	良	明赤褐 淡黄	にぶい赤褐 にぶい黄橙	透明で光る砂粒を多く含む	外面口縁…櫛歯波状文
34	壺	口縁 ～肩	口縁…ヨコナデ 肩…ヨコナデナデ	口縁…ヨコナデ 肩…ナデ、指押さえ 胴…ヨコナデ	良	にぶい黄橙 にぶい赤褐	灰黄 にぶい赤褐	0.2-3ミリの白・灰・褐色の砂粒を含む	
35	壺	胴 ～底	ノ方向のタタキ 風化している	ノ方向のヘケメ	良	灰白 明黄褐	灰白 明黄褐	0.5-2ミリの灰・褐色・乳白色の砂粒、0.5ミリ以下の黒色で光る砂粒を含む	外面胴～底…黒色あり
36	壺	胴 ～底	ミガキ(磨削)	ナデ	良	灰白	明黄褐	2ミリ以下の茶・灰白・半透明の砂粒を多く含む。0.5ミリ以下の黒色で光る砂粒を少し含む	丸底
37	壺	頸 ～底	ナテ・ヨコ・ノ方向のヘケメ、ヘラ状の工具でナテ・ノ方向にかきなでている	ノ方向のヘケメ	良	明赤褐	黄橙 黒褐	0.5-3ミリの白・灰・褐色の砂粒を含む	
38	壺	口縁 ～底	口縁…ナデ 頸…ナテ・ノ方向のヘケメ 胴…底…ヨコ・タテ方向のナデ	口縁…ヨコナデ 胴…ナデ、指押さえ 頸…底…ヨコ・ノ方向のヘケメ	良	橙	赤褐	0.2-6ミリの赤褐色の砂粒、2ミリ以下の白・灰白色の砂粒、1ミリ以下の茶・こげ茶・黒色透明で光る砂粒を含む	
39	壺	口縁 ～肩	風化の為不明	口縁…風化の為不明 頸…肩…指ナデ	良	淡黄橙	灰白	1-3ミリの砂粒、3-4ミリの砂粒を少し含む	
40	壺	口縁 ～肩	口縁…ナデ、ヨコナデ、ヨコ方向のヘケメのタテナデ、タテ方向のヘケメ 肩…ノ方向のタタキ	口縁…ナデ 肩…ノ方向のナデ、指押さえ	良	淡黄橙	淡黄橙 灰	1.5ミリ以下の白・灰・茶色、黒くて光る、透明で光る砂粒を含む	

表9 C地区出土土器観察表 (5)

図番 号	器 種	器 部	調 整		焼 成	色 調		胎 土	備 考
			外 面	内 面		外 面	内 面		
41	壺	口縁 ～胴	口縁→ヨコナデ・ タテ・ノ方向のハケ メ 胴→ノ方向のハ ケメの後タ テ方向のハ ケメ	口縁→ヨコ・ノ ノ方向のナ デ 胴→ノ方向のハ ケメ	良	にぶい赤褐 橙	赤褐	4ミリ以下の茶・灰 白・褐色の砂粒を含 む	
42	壺	口縁 ～胴	口縁→ノ方向の ハケメ 風化気味 胴→タテ・ヨコ 方向のハケ メ 風化気味	口縁→胴→ヨコ 方向のハケ メ	良	浅黄橙	浅黄橙 灰白	透明・黒色の光る砂 粒を少々含む 0.5-1ミリの灰・茶・ 半透明の砂粒を含む	外面→スス付蓋
43	壺	口縁 ～胴	口縁→ノ方向の ハケメ 胴→風化の為不明	口縁→風化の為 不明、ナデ か? 胴→ヨコナデ 胴→風化の為不明、 ナデか?	良	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙 褐灰	0.2-3ミリの灰・白・ 褐色の砂粒を含む	
44	壺	口縁 ～底	口縁→風化の為 調整不明 胴→タテ方向の ハケメ 風化している 胴～底→ヨコ・ ノ方向のハ ケメ ノ方向のミ ガキ 風化してい る	口縁→指押さえ の後ヨコナ デか? 胴→ノ方向の ハケメ 風化してい る 胴～底→ヨコ・ ノ方向の ハケメ 風化してい る	良	浅黄橙 淡橙	淡黄	0.5-3ミリの茶・黒 色の砂粒を少し含む	底→黒色あり
45	壺	胴 ～底	胴→ノ方向のヘ ラミガキの 後、ナデ、 ヨコ・タテ 方向のヘラ ミガキ、タ テ方向のハ ケメの後ヘ ラミガキ 底→ナデ	胴→タテ方向の ハケメの後、 指押さえ、 タテ方向の ハケメ 底→ナデ	良	暗赤褐 にぶい黄橙 黒褐	暗赤褐 にぶい褐	2ミリ以下の灰黄・ 灰・褐色、無色透明 で光る、黒くて光る 砂粒、3ミリ以下の 白色で光る砂粒を含 む	
46	壺	胴 ～底	胴→ヨコナデ、 ノ方向のハ ケメ、タテ 方向のミガ キ 風化気味 底→風化の為不明	胴→指押さえ、 ナデ 底→ナデ	良	橙 赤褐	褐灰 橙	2ミリ以下の灰色の 砂粒を含む 1ミリ以下の茶・白 色、無色透明で光る、 黒くて光る砂粒を含 む	

表10 C地区出土土器観察表 (6)

図 番 号	器 種	器 部	調 整		焼 成	色 調		胎 土	備 考
			外 面	内 面		外 面	内 面		
47	手づくね土器	口縁 ～底	ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ	良	灰 灰黄	灰	0.2～3ミリの灰・白・茶色の砂粒を含む	
48	蓋	口縁 ～胴	風化の為不明	風化の為不明	良	橙 灰	橙 灰	0.5ミリ以下の淡黄色の砂粒を少し含む 無色透明の光る細砂粒を含む	
49	鉢	口縁 ～底	風化の為不明	口縁…風化の為不明 胴～底…ヨコナデ、ナデ、指押さえ	良	にぶい橙 灰	にぶい黄 橙	0.2～4ミリの灰・白色の砂粒を多く含む	
50	鉢	口縁 ～底	口縁…ノ方向のナデ 胴…ナデ 底…指押さえの裏ナデ	口縁…ノ方向のナデ 胴～底…ナデ	良	明黄褐 赤褐	明褐	0.5ミリ以下の茶・褐色、無色透明で光る、黒くて光る砂粒を含む	外面底部…黒色あり
51	鉢	口縁 ～底	口縁…ヨコナデ 胴～底…ナデ	口縁…ヨコナデ 胴～底…ナデ	良	にぶい黄橙	灰黄褐	0.2～2ミリの白・クリーム色の砂粒、透明で光る、黒色で光る砂粒を含む	外面胴～底…黒色あり
52	鉢	頸 ～底	胴…ノ方向のハケメの後ヨコナデ 胴～底…タテ方向のハケメ	胴…ヨコ方向のハケメ 胴～底…ヨコ、ノ・タテ方向のハケメ	良	淡黄橙 にぶい赤褐	黄橙 にぶい赤褐	1.5ミリ以下の茶・灰黄・白色の砂粒を含む。黒くて光る、無色透明で光る細砂粒を含む	
53	鉢	口縁 ～胴	口縁…ナデ ナデ、ノ方向のハケメ 風化している 胴…ナデ、ノ方向のハケメ 風化している	風化の為不明	良	明黄橙	明黄橙	0.5～2ミリの褐・灰・白色、無色透明の砂粒を含む。0.5ミリの金色、黒色の光る砂粒を少し含む	
54	鉢	胴 ～底	風化の為不明	風化の為不明	良	淡黄	淡黄	2.5ミリ以下の茶・灰・灰白色の砂粒を多く含む	
55	脚付鉢	口縁 ～脚部	口縁…ヨコナデ 胴…ノ方向のハケメ、ナデ 脚部…タテ方向のハケメ、ナデ	口縁…ヨコナデ 胴…ヨコ、ノ方向のハケメ 底…ナデ、指押さえ 脚部…ノ方向のハケメの後指押さえ	良	にぶい橙 にぶい赤褐	にぶい黄橙 (脚…灰黄褐)	0.2～3ミリの褐・茶・灰色の砂粒を含む。黒く光る砂粒を少し含む	内面…黒色あり 外面…黒色あり
56	脚付鉢	口縁 ～脚部	口縁…ヨコナデ 胴…ナデ 脚部…ナデ	口縁…ヨコナデ 胴～底…ナデ 脚部…ヨコナデ、指押さえ	良	橙	橙	0.2～2ミリの褐・灰色の砂粒を含む	

表11 C地区出土土器観察表 (7)

器番号	器種	器形	調 整		焼 成	色 調		胎 土	備 考
			外 面	内 面		外 面	内 面		
57	埴	口縁 ～底	口縁…ヨコナデ 割～底…ヨコ・ ＼方向のミ ガキ風化し ている	口縁…ヨコナデ 割～底…ナデ 風化してい る	良	浅黄橙	浅黄橙	5～7ミリの褐色の 砂粒を少量。 1～4ミリの赤褐、 褐色の砂粒を多く含 む 2ミリの黒褐色の砂 粒を少量含む	
58	埴	口縁 ～底	ナデ	ナデ	良	浅黄橙	浅黄橙	5ミリの褐色の砂粒 を少量含む。 0.5～4ミリの黒・黒 褐・赤褐色の砂粒を 含む	
59	高坏	坏部	ナデ	ナデ 風化している	良	橙	橙	3ミリ以下の茶褐色 の砂粒を少し含む	
60	高坏	坏部	ヨコ・ナデ方向 のミガキ	＼方向のミガキ	良	にぶい黄 灰白	にぶい黄 灰白	2ミリの砂粒を含む。 灰白・透明で光る微 砂粒を多く含む	
61	高坏	坏部 ～ 脚部	坏部…ヨコ・＼ 方向のハケ メの後ヨコ ・＼方向の ミガキ 脚部…ナデ方向 のハケメの 後ナデ方向 のミガキ 裏部…ヨコ方向 のハケメの 後ミガキ	坏部…ミガキ 風化してい る 脚部…裏状のも ので横方向 にくるっと 回して調整 している。 裏部…ナデ	良	橙 浅黄橙 明赤褐	にぶい橙 にぶい褐 橙	1ミリの白・灰・茶 色の砂粒を含む	透かし脚部4ヶ所、 裾部4ヶ所
62	高坏	坏部	＼・ナデ方向の ハケメ 風化している	風化の為不明	良	浅黄橙 にぶい黄橙 橙	橙 浅黄橙 にぶい黄橙	透明で光る、黒く光 る砂粒少し含む 0.5～1ミリの灰・茶 色の砂粒を含む	
63	高坏	脚部	風化の為不明	ナデ 風化している	良	浅黄橙 灰	浅黄橙	1.5ミリ以下の無色透 明で光る、黒く透 る砂粒を含む 2ミリ以下の赤・白 色の砂粒を含む	透かし4ヶ所
64	高坏	脚部	ナデ方向のミガ キ 風化している	脚部…ナデ 風化してい る 裾部…ヨコナデ	良	淡黄	にぶい黄橙	白く光る粒・細砂粒 を含む	
65	高坏	脚部	ナデ方向のミガ キ 風化している	ナデか？ 風化している	良	明黄褐	橙	細砂粒を多く含む	
66	高坏	脚部	風化の為不明	風化の為不明 指押さえ	良	浅黄橙	橙	1ミリ以下の浅黄・ 灰白・黒く光る砂 粒、無色透明で光る 細砂粒を含む	

表12 C地区出土土器観察表 (8)

図番 器種	器部	調 整		模 成	色 調		胎 土	備 考	
		外 面	内 面		外 面	内 面			
67	高環	脚部	風化の爲不明	ヨコナデ 風化している	良	浅黄褐色	橙	1~2ミリの茶色の 砂粒を含む	
68	高環	脚部	タテ方向のミガキ	ナデ ヨコ・\方向の ハケメ	良	橙 にぶい褐	橙	2ミリの灰白の砂粒 及び透明で光る砂粒 を含む	
69	器台	脚部	\方向のハケメ タテ方向のミガキ	ナデ \方向のハケメ	良	橙	橙	きめ細かい 1ミリ以下の砂粒を 少し含む	透かし半完形で 2ヶ所残る
70	高環	脚部	タテ方向のミガキ 風化している	ナデ	良	橙	黄褐	細砂粒を多く含む	透かし2ヶ所残る
71	高環	脚部	タテ・ノ方向 のハケメ	坏部→ミガキ 脚部→ナデ、ヨ コ・\方向 のハケメ	良	にぶい黄褐 淡黄	にぶい黄褐	砂粒を多く含む	透かし4ヶ所
72	高環	脚部	タテ・\方向の ミガキ 風化している	坏部→ミガキ 脚部→ナデ	良	明黄褐 黄褐	明褐	きめ細かい砂粒を多 く含む	透かし一箇所・ 高さとも一定で はなく2個ずつ が3ヶ所
73	高環	脚部	タテ・ノ方向の ミガキ 風化している	坏部→ミガキ 脚部→ヨコ方向 のナデ	良	黄褐	にぶい黄褐色	きめ細かい砂粒を含 む	
74	高環	脚部	脚部→ヨコナデ、 タテ・\方 向のハケメ \方向・タテ方向 のハケメの後ヨ コナデ、ヨコナ デの後タテ・\ 方向のミガキ	坏部→割釦・風 化している 一部にナデ 脚部→ヨコ方向 に砥状工具によ るナデ 風化している	良	橙 にぶい赤褐	橙 にぶい褐	0.5~4ミリの褐色の 砂粒、2ミリ以下の 赤褐・白色の砂粒を 含む 1ミリ以下の黒くて 光る 金色に光る砂粒を少 し含む	外面→割刻 沈線あり
75	高環	脚部	タテ方向のハケ メ、ヨコナデ	タテ・ヨコ方向 のハケメ ヨコナデ	良	明赤褐	橙	1ミリの白色の光る 砂粒を含む 1~3ミリの砂粒を 多く含む	透かし残3ヶ所
76	高環	脚部	ヨコ・\方向のハ ケメ、ナデ 風化している	ヨコ・\方向の ハケメ、ナデ 風化している	良	灰オリーブ 明褐	赤褐 灰オリーブ 明黄褐	0.5~2ミリの白・褐 色の砂粒を含む 0.5~1ミリの黒色の 砂粒を少し含む 0.5ミリ以下の黒色、 透明の光る砂粒を含 む	外面→割刻
77	高環	脚部	丁字なタテナデ、 ヨコナデ	瓶いタテナデ、 ヨコナデ	良	明赤褐 橙	明赤褐 にぶい黄褐	1ミリの白色の光る 砂粒を含む 1~2ミリの砂粒を 多く含む	内面→黒色あり 透かし残2ヶ所
78	高環	脚部	タテ方向のハケ メ 風化している	ナデ、ヨコ方向 のハケメ 風化している	良	褐 にぶい褐	明褐	透明・黒く光る砂粒 を少し含む 0.5~1ミリの黒灰色 の砂粒を含む	透かし4ヶ所

表13 C地区出土土器観察表 (9)

区 別 号	器 種	器 部	調 整		焼 成	色 調		胎 上	備 考
			外 面	内 面		外 面	内 面		
79	高坏	脚部	ミガキ(磨耗)	ナテ	良	明黄褐 黄灰	明黄褐 黄灰	2.5mm以下の透明で 光る砂粒を多く含む 1.5mm以下の茶褐色 の砂粒を少し含む	外面…黒色あり
80	器台	脚部	ナテ	ナテ、ナテ方向 のナテ	良	淡黄	淡黄	3mm以下の茶・灰・ 褐色の砂粒を含む 1mm以下の白色の 砂粒を含む 無色透明で光る細砂 粒を含む	透かし下部3ヶ 所残、上部2ヶ 所残



園田遺跡B地区・C地区遠景



園田遺跡B地区（東方から）

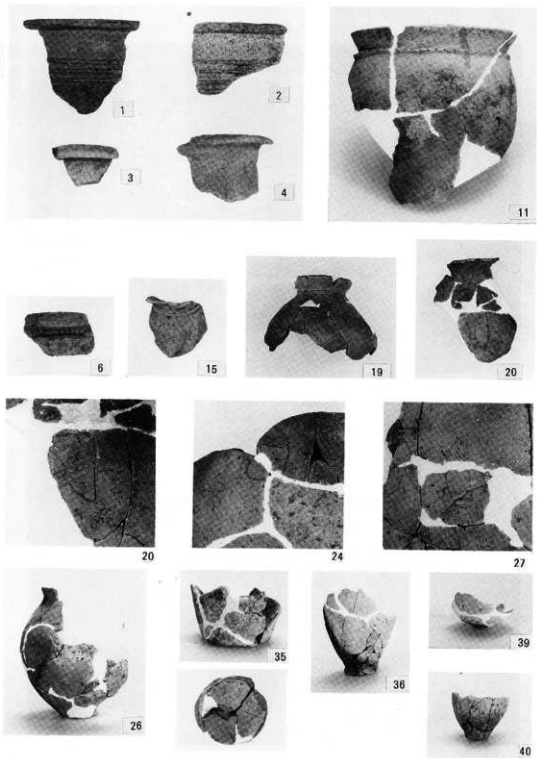


園田遺跡B地区（西方から）

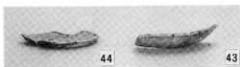


園田遺跡C地区

图版 3



B地区出土遺物 (1)



44

43



②



①



1



4



2



5



6



7



13



17



16



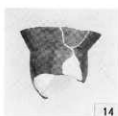
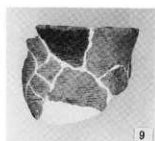
19



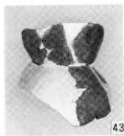
18

B地区出土遺物 (2)・C地区出土遺物 (1)

图版 5



C地区出土遺物(2)



C地区出土遺物 (3)



C地区出土遺物(4)



63



72



64



65



66



68



73



69



70



79



78



74



75



80



76



77



④



⑤

C地区出土遺物 (5)

付. 平成3年度 県市町村教育委員会発行埋蔵文化財調査報告書一覧

1. 宮崎県教育委員会「天神河内第1遺跡-大淀川右岸農業水利事業岡宮天神ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-」
2. 宮崎県教育委員会「新田原古墳群 三幸ヶ野遺跡群 丸谷地区遺跡群 奈留地区遺跡群 鬼塚地区遺跡群 椎形形遺跡群 長江浦地区遺跡群-平成2年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書-」
3. 宮崎県教育委員会「宮崎県文化財調査報告書第34集 新田場地下式横穴墓群 井野遺跡」
4. 高鍋町教育委員会「大戸ノ口第2遺跡」高鍋町文化財調査報告書第5集
5. 北方町教育委員会「速口峰地区遺跡-平成2年度泉宮ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書-」北方町文化財調査報告書第2集
6. 西都市教育委員会「諏訪遺跡-県立妻高等学校聖公会館建設事業に伴う調査報告-」西都市文化財調査報告書第12集
7. 西都市教育委員会「上妻遺跡 石貫遺跡 寺崎遺跡 法元遺跡 酒元遺跡 堂ヶ島遺跡 童子丸遺跡-平成2年度遺跡所在確認調査(市内遺跡発掘調査)事業に伴う発掘調査報告書」西都市文化財調査報告書第14集
8. 西都市教育委員会「串木第1遺跡・串木第2遺跡・兵惣寺遺跡」西都市埋蔵文化財調査報告書第15集
9. 西都市教育委員会「西都原古墳研究所・年報第7号(上宮遺跡、寺山遺跡、原山遺跡ほか)」
10. 宮崎県教育委員会「垣下遺跡」宮崎市文化財調査報告書
11. 新富町教育委員会「新富町内遺跡発掘調査概要報告書 湯之宮遺跡・隈ヶ迫横穴墓群・南原ベニガ工房跡」新富町文化財調査報告書第12集
12. 都城市教育委員会「平成2年度遺跡発掘調査概要 都之城跡(主郭部) 久玉遺跡(第3次調査) 宮ノ下遺跡 堂山(南地区)遺跡 牟田ノ上遺跡 屏風谷第1遺跡 都城市内出土遺物補遺(築池地下式横穴墓)」都城市文化財調査報告書第13集
13. 延岡市教育委員会「上南方地区遺跡 中尾原遺跡 山口遺跡-県営団場整備事業上南方地区に伴う発掘調査概要報告書-」延岡市文化財調査報告書第2集
14. 東郷町教育委員会「樋田遺跡-県営団場整備事業(坪谷川地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書-」

15. えびの市教育委員会「長江浦地区遺跡群 内丸・弁財天・馬場田遺跡－長江浦地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要－」えびの市埋蔵文化財調査報告書第8集
16. 串間市教育委員会「奈留地区遺跡 村上遺跡発掘調査概要報告書－県営農地開発事業奈留地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要－」串間市文化財調査報告書第4集
17. 串間市教育委員会「三幸ヶ野第2遺跡－県営農地保全事業三幸ヶ野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書－」串間市文化財調査報告書第5集
18. 田野町教育委員会「八重地区遺跡（前畑第2・砂田遺跡）－県営農地保全事業八重地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要－」田野町文化財調査報告書第12集
19. 南郷町教育委員会「崩野遺跡」南郷町文化財調査報告書第3集
20. 宮崎県教育委員会「男狹穂・女狹穂塚等資料集」
21. 高岡町教育委員会「久木野地下式横穴墓」高岡町文化財調査報告書第1集
22. えびの市教育委員会「広畑遺跡」えびの市埋蔵文化財調査報告書第7集
23. 日高正晴「西都原地下式4号墳の墓制的考察」西都原古墳研究所・年報第7号 西都市教育委員会
24. 高原町教育委員会「立切地下式横穴墓群」高原町文化財調査報告書第1集
25. 高鍋町教育委員会「町内遺跡発掘調査報告書 老瀬坂上第2遺跡・高鍋城跡」高鍋町文化財調査報告書第6集
26. えびの市教育委員会「原田・上江遺跡群 六部市遺跡 ー上江・池島地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査概要報告－」えびの市埋蔵文化財調査報告書第9集
27. 宮崎県教育委員会「国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査報告書3」
28. 西都市教育委員会「上宮遺跡－西都原運動公園雨天練習場建設に伴う調査報告」西都市埋蔵文化財調査報告書第13集
29. 串間市教育委員会「串間市遺跡詳細分布調査報告書」
30. 佐十原町教育委員会「佐十原町遺跡詳細分布調査報告書」佐十原町文化財調査報告書第5集

宮崎県文化財調査報告書

第 35 集

平成4年3月

発 行 宮 崎 県 教 育 委 員 会

編 集 宮 崎 県 教 育 庁 文 化 課

